

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 福岡財務支局長

**【提出日】** 平成25年8月13日

**【四半期会計期間】** 第110期第2四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

**【会社名】** 株式会社正興電機製作所

**【英訳名】** SEIKO ELECTRIC CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 福重 康行

**【本店の所在の場所】** 福岡市博多区東光二丁目7番25号

**【電話番号】** (092)473 - 8831(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営統括本部長 田中 勉

**【最寄りの連絡場所】** 福岡市博多区東光二丁目7番25号

**【電話番号】** (092)473 - 8831(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営統括本部長 田中 勉

**【縦覧に供する場所】** 証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第109期 第2四半期 連結累計期間	第110期 第2四半期 連結累計期間	第109期
会計期間	自平成24年1月1日 至平成24年6月30日	自平成25年1月1日 至平成25年6月30日	自平成24年1月1日 至平成24年12月31日
売上高 (百万円)	7,527	8,550	16,358
経常利益 (百万円)	96	171	245
四半期(当期)純利益 (百万円)	30	158	19
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	52	227	36
純資産額 (百万円)	4,958	5,081	4,883
総資産額 (百万円)	12,235	13,982	15,987
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	2.56	13.44	1.66
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	40.5	36.3	30.5
営業活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	1,442	2,936	205
投資活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	233	280	828
財務活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	1,334	1,738	769
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	1,485	2,310	1,360

回次	第109期 第2四半期 連結会計期間	第110期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日
1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	18.94	8.14

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営んでいる事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、一部に弱さが残るものの東日本大震災からの復興需要や新政権の経済政策への期待感から、円安に伴う輸出産業の業績回復や株価上昇など景気回復への持ち直しの動きがみられました。しかしながら、欧州債務問題による海外経済の低迷、中国をはじめとしたアジア諸国の景気の減速などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは中期経営計画（CHALLENGE SEIKO IC2014）の基本方針である『グループ総合力を発揮できる経営基盤を構築し、社会インフラ事業を中核とした高収益企業への変革を目指す』のもと、厳しい外部環境にも耐えうる経営基盤の構築を加速させるため3つの戦略（事業戦略の推進 コスト構造改革 組織構造改革）を柱とした三位一体の構造改革に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、受注高につきましては、電力部門において設備投資抑制などの影響により減少いたしました。環境エネルギー部門の公共関係が堅調に推移し、8,105百万円（前年同期比6.1%増）となりました。売上高は、電力部門の総合制御所システムや、環境エネルギー部門の受注増加により8,550百万円（同13.6%増）となりました。

損益につきましては、営業利益は89百万円（同16.5%増）、経常利益は171百万円（同77.9%増）、四半期純利益は158百万円（同425.1%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### （電力部門）

配電自動化システムやリプレース・メンテナンス市場に注力してまいりましたが、受注高は新たな大口システムがなかったことや、メンテナンスや設備更新関係の減少により、1,795百万円（前年同期比33.8%減）、売上高は総合制御所システムなどにより2,695百万円（同22.5%増）となりました。

（環境エネルギー部門）

公共関連において水処理や道路設備などが堅調に推移し、受注高は4,524百万円（前年同期比 38.2%増）、売上高は4,229百万円（同 13.6%増）となりました。

（情報部門）

港湾関連システムやASPなどのサービス分野は堅調に推移いたしましたが、金融及びエネルギー関連向けの受託開発分野が減少し、受注高は589百万円（前年同期比 19.5%減）、売上高は413百万円（同 39.1%減）となりました。

（その他）

サービス部門において環境・省エネ設備関連の取込みなどにより、受注高は1,196百万円（前年同期比 29.3%増）、売上高は1,212百万円（同 31.2%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

（流動資産）

当第2四半期連結会計期間の流動資産の残高は、前連結会計年度と比較して2,053百万円減少の9,087百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が2,829百万円減少したことによるものであります。

（固定資産）

当第2四半期連結会計期間の固定資産の残高は、前連結会計年度と比較して47百万円増加の4,894百万円となりました。これは主に、有形固定資産が減価償却等により72百万円減少したものの、投資有価証券が時価の上昇等により122百万円増加したことによるものであります。

（流動負債）

当第2四半期連結会計期間の流動負債の残高は、前連結会計年度と比較して2,136百万円減少の6,545百万円となりました。これは主に、短期借入金が1,600百万円減少したことや支払手形及び買掛金が432百万円減少したことによるものであります。

（固定負債）

当第2四半期連結会計期間の固定負債の残高は、前連結会計年度と比較して66百万円減少の2,355百万円となりました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間の純資産の残高は、前連結会計年度と比較して197百万円増加の5,081百万円となりました。これは主に、為替換算調整勘定が42百万円減少したものの、利益剰余金が四半期純利益の計上等により129百万円増加したことやその他有価証券評価差額金が時価の上昇により110百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ950百万円増加し、2,310百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、2,936百万円（前年同期は1,442百万円の増加）となりました。これは、仕入債務の減少446百万円による資金の減少があったものの、売上債権の減少2,866百万円によりキャッシュ・フローが増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は、280百万円（前年同期は233百万円の減少）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出等があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、1,738百万円（前年同期は1,334百万円の減少）となりました。これは、主に短期借入金の返済によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は56百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,953,695	11,953,695	福岡証券取引所	単元株式数100株
計	11,953,695	11,953,695		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日		11,953		2,323		1,603

## (6) 【大株主の状況】

平成25年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
九州電力株式会社	福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号	1,736	14.52
株式会社日立製作所	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	1,630	13.63
株式会社九電工	福岡市南区那の川一丁目23番35号	1,619	13.54
西日本鉄道株式会社	福岡市中央区天神一丁目11番17号	1,133	9.47
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(三井住友信託銀行 再信託分・西部瓦斯株式会社退 職給付信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	552	4.62
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神二丁目13番1号	517	4.33
土屋達雄	福岡市中央区	467	3.91
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前三丁目1番1号	459	3.84
土屋直知	福岡市中央区	301	2.52
株式会社北九州銀行	北九州市小倉北区堺町一丁目1番10号	200	1.67
計		8,618	72.10

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 121,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,819,000	118,190	
単元未満株式	普通株式 12,995		
発行済株式総数	11,953,695		
総株主の議決権		118,190	

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式13株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が900株(議決権9個)が含まれております。

## 【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社正興電機製作所	福岡市博多区東光二丁目 7番25号	121,700		121,700	1.01
計		121,700		121,700	1.01

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,426	2,376
受取手形及び売掛金	1 7,548	1 4,719
有価証券	64	91
商品及び製品	159	110
仕掛品	1,446	1,311
原材料	290	280
その他	235	225
貸倒引当金	30	26
流動資産合計	11,141	9,087
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,555	2,507
その他(純額)	886	861
有形固定資産合計	3,442	3,369
無形固定資産	119	116
投資その他の資産		
投資有価証券	1,207	1,329
その他	82	81
貸倒引当金	4	3
投資その他の資産合計	1,284	1,407
固定資産合計	4,846	4,894
資産合計	15,987	13,982
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,290	3,858
短期借入金	3,009	1,408
未払法人税等	37	24
工事損失引当金	12	8
その他	1,332	1,245
流動負債合計	8,682	6,545
固定負債		
長期借入金	428	392
退職給付引当金	1,747	1,763
その他	246	199
固定負債合計	2,422	2,355
負債合計	11,104	8,900

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323	2,323
資本剰余金	1,640	1,640
利益剰余金	1,035	1,164
自己株式	52	52
株主資本合計	4,946	5,075
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47	63
為替換算調整勘定	15	58
その他の包括利益累計額合計	63	5
純資産合計	4,883	5,081
負債純資産合計	15,987	13,982

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	7,527	8,550
売上原価	6,092	7,198
売上総利益	1,434	1,351
販売費及び一般管理費	1,357	1,262
営業利益	76	89
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	9	9
受取賃貸料	8	5
為替差益	4	77
貸倒引当金戻入額	14	8
その他	14	12
営業外収益合計	52	114
営業外費用		
支払利息	19	21
その他	12	10
営業外費用合計	32	31
経常利益	96	171
特別損失		
投資有価証券評価損	26	-
固定資産廃棄損	19	-
会員権評価損	-	0
特別損失合計	46	0
税金等調整前四半期純利益	50	171
法人税、住民税及び事業税	12	13
法人税等調整額	7	1
法人税等合計	20	12
少数株主損益調整前四半期純利益	30	158
四半期純利益	30	158

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	30	158
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	30	110
為替換算調整勘定	8	42
その他の包括利益合計	21	68
四半期包括利益	52	227
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	52	227

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	50	171
減価償却費	113	150
退職給付引当金の増減額（は減少）	3	15
貸倒引当金の増減額（は減少）	15	8
受取利息及び受取配当金	10	10
支払利息	19	21
売上債権の増減額（は増加）	2,818	2,866
たな卸資産の増減額（は増加）	63	209
仕入債務の増減額（は減少）	1,718	446
前受金の増減額（は減少）	250	199
その他	99	197
小計	1,475	2,971
利息及び配当金の受取額	10	10
利息の支払額	19	20
法人税等の支払額	23	24
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,442	2,936
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	165	65
定期預金の払戻による収入	67	65
有価証券の取得による支出	837	134
有価証券の償還による収入	900	107
有形固定資産の取得による支出	195	251
投資有価証券の取得による支出	3	3
その他	0	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	233	280
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,241	1,655
長期借入金の返済による支出	-	35
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	76	29
リース債務の返済による支出	15	16
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,334	1,738
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	32
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	120	950
現金及び現金同等物の期首残高	1,606	1,360
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,485	2,310

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日至平成25年6月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
1 連結会計年度末日満期手形の会計処理 期末日満期手形は手形交換日をもって決済処理しております。従って、当連結会計年度末日は、金融機関の休業日のため、期末日満期手形が次の科目に含まれております。	1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理 四半期連結会計期間末日満期手形は手形交換日をもって決済処理しております。従って、当第2四半期連結会計期間末日は、金融機関の休業日のため、四半期連結会計期間末日満期手形が次の科目に含まれております。
受取手形 17百万円	受取手形 38百万円
2 受取手形裏書譲渡高 5百万円	2 受取手形裏書譲渡高 7百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日至平成25年6月30日)
1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
退職給付費用 37百万円 給与及び手当 528百万円	退職給付費用 35百万円 給与及び手当 497百万円
2 当社グループの売上高は、事業の性質上、第1四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間の売上高が他の四半期連結会計期間と比較して多くなる傾向があります。	2 同左

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 1,650百万円	現金及び預金 2,376百万円
預入期間が3か月超の定期預金 165百万円	預入期間が3か月超の定期預金 66百万円
現金及び現金同等物 1,485百万円	現金及び現金同等物 2,310百万円

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年2月17日 取締役会	普通株式	76	6.50	平成23年12月31日	平成24年3月15日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年8月10日 取締役会	普通株式	59	5.00	平成24年6月30日	平成24年9月11日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年2月18日 取締役会	普通株式	29	2.50	平成24年12月31日	平成25年3月14日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年8月13日 取締役会	普通株式	59	5.00	平成25年6月30日	平成25年9月12日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電力部門	環境エネ ルギー 部門	情報部門	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,201	3,722	678	6,602	924	7,527		7,527
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	3	114	118	437	555	555	
計	2,201	3,725	793	6,721	1,361	8,082	555	7,527
セグメント利益又は 損失( )	89	16	25	131	54	76		76

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、制御機器、電子装置、(高分子/液晶)複合膜フィルム等の製造販売、汎用電気品等の販売であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント (注)3				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電力部門	環境エネ ルギー 部門	情報部門	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,695	4,229	413	7,338	1,212	8,550		8,550
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	5	98	104	368	472	472	
計	2,695	4,234	512	7,442	1,580	9,023	472	8,550
セグメント利益	0	60	21	82	6	89		89

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、制御機器、電子装置、(高分子/液晶)複合膜フィルム等の製造販売、汎用電気品等の販売であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3 「電力システム」「社会システム」「情報システム」は、組織変更に伴い、当第2四半期連結会計期間より、「電力部門」「環境エネルギー部門」「情報部門」に名称変更しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円56銭	13円44銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	30	158
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	30	158
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,832	11,832

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第110期(平成25年1月1日から平成25年12月31日まで)中間配当について、平成25年8月13日開催の取締役会において、平成25年6月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議しております。

配当金の総額 59百万円  
1株当たりの金額 5円00銭  
支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成25年9月12日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 9日

株式会社正興電機製作所  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 内 藤 真 一

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 野 宏 治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社正興電機製作所の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社正興電機製作所及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。